

山行番 NO. 1656
日時 2015.09.11(金・夜)～12(土)晴・涼しい西風
山域 北ア・西穂高岳(2909m)

コース・ 11日=下土狩19:00-鍋平駐車場23:30(テント泊)
タイム 12日=起床4:45-ロープウェイ始発6:00-西穂高口発(ロープウェイ終点)6:13
—西穂山荘7:11—独標8:22—ピラミッド・ピーク8:48—西穂高岳9:37
～55—独標11:10—西穂山荘11:58—西穂高口12:50—温泉「ひがくの湯」—下土狩19:45

標高差 上り=西穂高口約2156m～西穂高岳2909m=約753m(ただし、縦走長い)
下り= ”

参加者 後藤、勝又陽、浜道=3名

北アルプスに登るためには最低でも4時間以上のドライブを強いられる。今回の計画は当初、焼岳だった。しかし、焼岳はバリバリの活火山。急遽、山を変更することになり、前泊で、日帰り山行の出来る山を生き字引のCLから「西穂高はどうか？但し、ロープウェイの営業時間次第だが・・・」と提案があり、驚きと不安とが交差した。Kさんは異論無しで、飄々としている。

とにかく、エアリアマップとスマホで情報収集。すると新穂高ロープウェイの営業時間が一年に一度だけの登山フェスティバルで6:00から運行開始だった。通常の夏時間の開始は8:00。日帰りは厳しいが、この特別運行なら日帰りが可能だ。何と言う巡り合わせだ。心からこの運に感謝をした。するといつの間にか不安は消えてしまった。

今年の8月に槍ヶ岳に仲間と登山をした。またこの地を訪れることが出来、嬉しかった。23時半、鍋平駐車場着。24時まで交流会だったが、早朝、というより深夜から人の行き来で何となく曖昧な睡眠で起きるしかなく、ぼんやりと朝食、身支度をして、料金300円のしらかば平の有料駐車場に出発。下の方の駐車場に停めて歩きだした。徒歩5分先にも駐車場があり、知っていたらここに停めたのに・・・。

しらかば平駅から二階建てのゴンドラ、第2ロープウェイから乗車。他の割引券もあったが、JAF割引が一番お得という事が親切な販売のスタッフに聞いて、ラッキーだった。往復2800円が2500円。荷物は6kg以上400円追加の所が200円で済んだ。でも、高い。この特別運行を知っている人だけ、約7分の空中の旅。

焼岳、笠ヶ岳の山頂が日に照らされて美しい。お天気も良さそうだ。西穂高口駅に到着。空気はヒンヤリと涼しい。あとで知った事だが、ロープウェイ駅の4階に登山口があったらしい。水場もあり、展望も良いようだ。私たちはそのまま降りた2階から外にでて、遊歩道から西穂高口登山届出所の横を通り、登山道に入る。

西穂山荘までコースタイムは1時間30分。西穂高口の標高は2156m。西穂山荘の標高は2385m。最初は木板の道。しかし、その後は石の道になり、アップダウンが3回くらいあり、結構きつい。後続の若手登山者10名位に道を譲り、CLは年齢を感じるとか・・・。中には「地下足袋の男性」がいた。鬱蒼とした林道を通り抜け、空が見え始めたと思ったら、立派な山荘が見えた。西穂山荘だ。宿泊もできる。約1時間で到着。小休止して、独標に向かう。分岐には西穂高岳2.4



焼岳



地下足袋男性



西穂山荘



白玉木の実



快適な山稜

kmと記してあった。日が少しずつ高くなり始めてきた。でも空気は涼しくて気持ちの良い最高の登山日和だ。稜線は、心地よい西風が吹いていた。

少し上がると、西穂山荘の屋根の延長上に乗鞍岳、焼岳がポツコリとみえる。前方には西穂高岳がとんがっている。左手には笠ヶ岳が構え、南方面には上高地、大正池が見えた。さすがに河童橋は見えなかったが、大変見晴らしが良い所。さながら観光気分だ。

つかの間の散歩道から、一変して岩、石が多くなる。ケルンがある所を通り過ぎ、西穂丸山を通り、なだらかな登りから少しきつい上りになる。ガラガラ石の道だ。歩き難い。風も冷たく、上着を着たいと思った。独標を目前にした時、今にも落ちてきそうなごつごつの岩の山に驚き、怖いと思った。CLからヘルメット着用の指示。ついでに防風対策。鎖場を上がり西穂高岳独標 2701m登頂。帰宅して知った事だが、西穂高岳山頂から大小13のピークがあるらしい。独標は11峰と書かれていた。西穂山荘からコースタイム1時間30分を1時間で到着。余裕が出来良かった。ここから難所とCLが言う。ゴツゴツの岩稜をピラミッド・ピーク目指して下る。ここでUターンする登山者もいる。この後知った事だが、ここでKさんはヘリコプターの写真を撮った。ほんの20分前にここで滑落者がいて救助に来ていたようだ。その方は(都留市・55歳)亡くなったそうだ。その現場を見なくて良かった。今、思うとぞっとする。CLは過去30年前に訪れた時はもっと険しくて、この先、登山者が入りにくかったという。今は、ロープウェイありで、安易に観光気分で来る人がいる。事故が起きない事を願うだけだ。

11峰目の独標の下りを越えると8峰目のピラミッドピークまで岩のピークを上ったり下ったり、手と足を絶対に外さないよう岩にしがみついて進む。コースを間違わないように要注意。岩に大きな白いペンキで書かれている矢印と円が目印だ。×の方向は危険だから絶対に行かない方が良い。事故の元だ。緊張の連続だが、足場を確認しながら進めばそんなに怖くない。20分程で登頂。

上高地の梓川を眺め、ガレ道の緩やかな鎖の尾根伝いを慎重に上る。疲労した足には危険だ。躓かないよう気を付ける。

4峰と書かれている険しい岩場にぶつかる。どうもこれがチャンピオンピークらしい。切り立った岩を登り上がる。登り切ってピークを越えたら、目前に見えるのが西穂高岳。立派だ。2峰をトラバースして、1峰 西穂高岳にアタック。真下では山頂が見えない角度の大岩だ。とにかく全身を使ってよじ登る。岩に主峰と書かれたすぐ上が山頂だ。もう少しだ。岩を踏みしめて、「前穂高岳 2909m」の標識を見た時、これ以上登らなくて良いとホッとした。

山頂はお天気も良く心地の良い風の中、富士山も眺めることが出来、最高の360度パノラマビューだ。岩がごつごつしていなかったら昼寝をしたいくらいの小春日和だ。Kさんと登山するときはなぜか天気も良く、風もない日が多い。有難いです。とても贅沢なロケーション。岩に腰掛け、山頂で焼岳を俯瞰しながら 昼食には早すぎの間食を摂った。満足！

休憩が終り、下りの開始だ。CLにハーネスを着用するように指示された。西穂高直下は傾斜がきついのとステップが少ないので滑ると判断したからだと思う。CLはザイルも用意して、下り始める。私は厳しいと思ってはいたがそれ程でもなく、下りることが出来た。難関をクリアできてほっとした。

私達の登頂した時間が早かったせいか、上って来る登山客が多いのに驚いた。お昼近く、上って行く人は小屋泊まり！？最終ロープウェイには間に合わないですね。毎度のことだが、下りは疲労も蓄積しているため、一番嫌である。「怪我をしないように」「慎重に」とおまじないのように、唱えながら下りる。登ってきた数のピークを 気を抜かないように下り、西穂山荘まで下りてきた時は安堵と足の疲れで休憩したかったが、温泉の魅力が先行していたので、目もくれずロープウェイ西穂高口まで頑張った。お疲れ様でした。CLとメンバーに感謝です。



独標



独標下り



ピラミッド・ピーク



奥穂方面



参加者の一言

勝又 「久しぶりの本格的山行で心配でしたが、天気は晴天、ロープウェイも特別に6時から運行していて最高な一日でした。」

浜道 「今回は本当に運が良かったです。ロープウェイの営業時間もそうですが、雨だったら危険で絶対行けるところではありません。CLの経験で提案して頂けたことに感謝しております」

後藤 「久しぶりの西穂だった。この山には、数々の思い出がある」

1. ある5月、新人を何人か連れて上った。残雪の山は案外難しい。ザイルを頻繁に使ったり、最終ロープウェイに僅差で間に合わなかった。結局、スキー場を2時間かけて下った。イバラが最悪でした。
2. 1975年の冬山時は、ロープウェイ駅にテン泊。駅員さんもヒマそうで仲良くなった。
3. 1997年の西穂高西尾根時、西穂山頂着が17時。西穂山頂でテント泊。7名で、下手をすると落ちそうだった。10月だった。夜半、妙に静かと思って外を覗いたら、一面の雪だった・・・。ただ、あの時の「ボルシチ」は、サイコーだった。長い間、いろいろあったね。

その他の記述（後藤）

1. 鍋平駐車場は、夜中五月蠅い。別場所で泊まって、朝来るのがイイ。（この時期、駐車場は空あり）
2. 駐車料金は、ロープウェイ窓口で支払う。
3. 花は既に終わり。御前橋・苔桃・七竈・白玉の実など、果実が多かった。
4. 当初、予定の焼岳は、水蒸気が全く出ていなかった。何故??!!
5. 朝抜かされた人たちも、帰りは、殆ど一緒だった。
6. しかし、素人っぽい方が多かった。ヘルメットがなし・ズックの履き・ヘッピー腰。これでは事故が多いだろう。
7. 他の部分は不要だが、西穂直下は、鎖があったほうがイイ。
8. やっぱり、夜行は厳しい。せめて午後行きたい。



西穂山頂